グリーン経済フォーラム2026｜開催報告

「交通」から考える、企業のサステナ経営

『Scope 3』時代の中小企業のサバイバル戦略 ― 時代に乗り遅れないサステナ経営とサステナ人材づくり

環境活動を「コスト」だけで終わらせず、
人材・経営・地域の持続可能性につなげる。

01｜基調講演 滋賀銀行

サステナビリティは経営そのもの
CSRや社会貢献にとどまらず、売上・採用・定着・資金調達・ブランドと結びつける。自社の課題から社会課題との接点を見つけ、日々の仕事に落とし込む人材が必要。

02｜企業事例 ダイフク

通勤は、企業の経営課題でもある
自動車通勤の集中が渋滞・環境負荷・駐車場不足・採用面の課題に。通勤バス、在宅勤務、オンライン会議、エコ通勤の工夫などを紹介。

03｜企業事例 キタイ設計

社員の「自分ごと化」が出発点
若手社員の意見やワークショップを取り入れ、普段の仕事とサステナビリティのつながりを見つける。上から押しつけず、社員の気づきと自主性を支える。

04｜滋賀県の交通政策

地域交通は、暮らしを支える基盤
バス運賃収入で賄える運行費は約56%。運転士不足や減便などの課題があり、2026年3月に「滋賀地域交通計画」を策定。企業との対話やエコ通勤も重視。

ディスカッション｜企業戦略と地域交通をつなぐ

- 企業にとってのメリットと地域交通をつなぐ。 通勤環境は採用・定着や事業継続にも関わる。
- 「環境のために我慢して乗り換えて」では行動は広がらない。 公共交通や自転車が便利で合理的な選択肢になる仕組みが必要。
- 企業と行政には、意思決定の速さや判断基準の違いがある。 互いの事情を理解し、事業上のメリットも含めて歩み寄る。
- 黒字路線だけでなく、地域に必要な交通をどう支えるか。 公的支援や市民の負担も含め、社会全体で支える視点が問われた。
- 「私はこれをする。だから一緒にやろう」。 押しつけではなく共感と継続的な協働で、暮らしをよくする交通を考える。

次の一歩

「環境のために車をやめましょう」ではなく、
「環境にも、産業にも、暮らしにもよい移動を選べる地域を、
市民・企業・行政で一緒につくる」へ。

主催：一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク（SGN）｜エコ交通研究会 ※当日の発表・討論内容をもとに要約

簡易リポート → https://posfie.com/@kuunoru/p/jvysx2s